

2019年度第9回霞ヶ浦自然観察会実施結果報告

「山地に咲く秋の花 薬王院を訪ねる」を実施しました。

日 時：2019年11月2日（土曜日）午前9時から午後3時まで

場 所：桜川市薬王院およびつくし湖

参加者：31名

結 果： 往路のバスの中で、これから行く薬王院周辺でのミカン栽培について、ミカンの特性や筑波山で起こる斜面温暖帯について説明を行いました。薬王院の駐車場に到着、講師の福田先生と合流して観察会を開始しました。色づき始めたフクレミカンがあり、福田先生からもミカンと気象の関係について話がありました。山門に移動すると、山門に彫られた彫刻などに興味を示す参加者もありました。直径が2m以上もある巨木のスタジイが何本もあるのを見て驚いていました。本堂へ続く急な石段を上り始め、シダのイノデや、シュウブンスウやアリドオシを見ました。アリドオシには長く鋭い棘があり、アリも刺さるのでその名があることや、小さな赤い実を付けるので、別名、一両と呼ばれることが話されました。その後、十両と呼ばれているヤブコウジや、センリョウ、マンリョウが観察できました。いずれも赤い実を付けて、その数が段々と多くなっていくことで、一両から万両までの名があることに興味を覚えた人もいたようです。

三重塔の脇に高く紅葉している木がありました。ムクロジです。落ちていた実がないかと探しましたが、残念ながらありませんでしたが、先生から種子は丸く堅いので、昔は羽根突きの羽の使われたことが話されました。本堂の裏を散策すると、インゲン豆を2本垂らしたような赤い実を付けたテイカカズラ、縁起が良い名前が付いているキチジョウソウも観察しました。

薬王院を後に、急な坂道を下り始めると、バスの中で話した温州ミカンのみかん園があり、黄色い実をたくさん付けていました。その後、鞆が赤くなりそこから黒い種子が付いたオオバタンキリマメや、一見シダの仲間ではないようなカニクサなどを観察し、坂道は沢に出ました。沢の水はきれいで、かなりの水量がありました。沢沿いの坂道を下り、実を付けたフユイチゴ、葉が牛の顔に似ているミゾソバなどを観察しました。

観察した植物

草本：シュウブンスウ、ビナンカズラ、キカラスウリ、イタビカズラ、キチジョウソウ、ツワブキ、ホトトギス、ミズヒキ、ナキリスゲ、ヤブラン、サルトリイバラ、ヤクシソウ、マメツタ、アズマヤマアザミ、リンドウ、など

木本：クスノキ、ヤツデ、アオキ、イロハモミジ、クサギ、ヤブツバキ、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、モッコク、ヤブムラサキ、ニワトコ、ムクノキ、トウカエデ、エノキ、キイチゴ、ヤマウルシ、ヒイラギ、アセビ、シロダモ、シラカシ、ヒサカキ、オカメザサ、アカシデ、ウラジログシ、テイカカズラ、チャノキなど

シダ：リョウメンシダ、ノキシノブ、オクマワラビ、ジュウモンジシダなど

次に観察会の様子を紹介します。



スダジイ



キチジョウソウ



フクレミカン



ビナンカズラ



リョウメンシダ